

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 24 日現在

機関番号：37117

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24320047

研究課題名(和文)女性MANGA研究：グローバル化と主体性表現ーアジアを中心として

研究課題名(英文)Research in Women's Manga: Glocalization and the Possibilities for Expression of Subjectivity

研究代表者

大城 房美(Ogi, Fusami)

筑紫女学園大学・文学部・教授

研究者番号：80289595

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,400,000円

研究成果の概要(和文)：「女性」という主体とグローバル化によって広がったMANGAは、均質ではなく多様な表現を生み出しているという先の研究から得られた観点から、本研究では「グローバル化」をキーワードに、アジア(東/東南アジア)に焦点を定め、各地域での日本マンガの影響、地域独自の女性マンガ文化の成り立ちや発展、動向や現状の調査・分析を行い、その成果を論文や学会で発表し、論集を発行した。女性MANGA研究プロジェクトとして開催した3回の国際会議では、地域公共機関の協力を得て現地の女性作家も招聘して討論を行い、グローバルな現象を経て生み出されたMANGAの派生文化的領域の可能性のさらなる検証が、今後の課題として確認された。

研究成果の概要(英文)：This research in Women's Manga addresses the nature, scope and significance of the "Glocalization" of the unique female expression. We thus seek to evince the diverse expressiveness which the medium of Manga has helped create. This will elucidate social and historical aspects of the Asian localization wave of Manga. In particular, we focus on female participants new to the field of comics. The Women's Research MANGA Project gave three annual conferences in Asia. These featured local female artists with the help of local associations. They also included scholars and artists from different cultures. These activities suggested the potentiality of a cross-media arena derived from manga culture. This extended the perspective to manga itself. Manga has contributed to the development of a new female perspective and a different form of communication for each locality's culture. Glocalization has enabled this extended perspective, which will enhance the globalization of the medium.

研究分野：比較文学・文化

キーワード：国際交流 女性 アジア マンガ コミックス 表象文化 グローバル グローカル

1. 研究開始当初の背景

先の研究「女性 MANGA 研究: 主体性表現の可能性とグローバル化—欧米/日本/アジア(基盤研究B、H21-23、大城房美代表)によって、「グローバル化」という視点こそが、MANGA と「女性」の主体性表現の繋がり の検証に必要であることが明らかになった。近年海外で活動する女性作家の多くは MANGA を切掛けに活動を始めており、自身の文化圏のコミックス文化が男性中心であり、女性が主体的に加わることで自体が歴史的に画期的であることを認識している。しかし、コミックスにおいて周縁化されていた「女性」たちが描き出したものは、「女性」の可視化、つまり「女性」というラベルによるグローバルな均質化に留まらない。MANGA と「女性」という主体性表現の関わりは、それぞれの文化変容を反映しつつ、多様化した表現を生み出している。

2. 研究の目的

本研究では、主流と見なされてきた3大コミックス(マンガ[日本]、アメコミ[米]、バンド・デシネ(B.D.ペデ)[欧])から社会・歴史的影響を受けた故に、現在それを越えゆく可能性を模索する「地方」としてのアジアに焦点を当てる。MANGA が接続した「新しい参加者」である「女性」と「女性」が使ってきたメディアについて比較文化論的視点から考察し、新しい文化表象としての MANGA の役割を明らかにする。

3. 研究の方法

国内/海外において、アジア(東/東南アジア)を中心とした女性コミックス/MANGA 文化に関わる資料・文献収集を行い、研究会/学会/イベントに参加し、研究者や作家と交流/連携を深め、情報交換/収集の場を構築する。本研究の総称としての「女性 MANGA 研究プロジェクト」(Women's MANGA Research Project)の国際会議やシンポジウムをアジアで開催し、研究のネットワークをさらに活性化させつつ、現地での調査活動/成果公表を行う。

4. 研究成果

<2012 年度>

H21-H23 年度の「女性 MANGA 研究」(基盤研究(B)課題番号 21320044)をさらに発展させるべく、グローバル化とアジアに焦点を当て、以下の研究活動を行った。

- (1) 調査・研究：主に以下の現地調査を行い、その成果を各自が論文や研究発表で報告した。香港(10月)：長池と大城は、研究協力者 Cheng Tju Lim と、マンガ作家、香港芸術中心、正文社、香港中文大学、香港城市大学などを訪問。現地の研究者や院生と、香港コミックスの歴史と現状を調査。シンガポール(11月)：須川は Anime Festival in Asia にて、コスプレイヤーを取材。ソウル(11月)：ベルントはマ

ンガ・アニメの学術誌「メカデミア」会議に参加。会議では、「少女」や「女性性」といったテーマは主に日本との関連で分析されてきたことが取り上げられた。マニラ(12月)：長池、須川、大城は、Lim とアテネオ・デ・マニラ大学の院生や研究者の協力を得て、マンガ作家、コスプレイヤー、イベントオーガナイザーを取材。Blush Convention で講演を行った。

- (2) 第4回女性 MANGA 国際会議【シドニー大学(Rebecca Suter)、Art Gallery of SNW(Ann MacArthur)との共催開催(1月)】：日本、イタリア、台湾、オーストラリア、シンガポールなどから、CFP をパスした院生を含む19名の研究者・4名のマンガ家(オーストラリアの女性作家2名を含む)と、シドニーで3日間の国際会議を企画・運営。女性学、ジェンダー論、カルチュラル・スタディーズ、メディア研究、地域研究など異なる専門分野の研究報告から、活発な討論が行われた。アジア諸国における近代化やそれがもたらすジェンダー秩序という側面からも、女性マンガ分析の必要性が問われ、「アジア」をいかに捉えるか、それをいかに「マンガ」と結びつけるかという問題も議論され、アジアにおける女性 MANGA 研究の課題を具体化した。

<2013 年度>

- (1) 調査・研究：以下の各地域で、現状の調査・分析を行い、その成果を各自が論文や研究発表で報告した。日本の出版社調査から得たデータも含め、国内外における女性マンガについて比較分析も開始した。インドネシア(6月)：長池と大城は、国際漫画会議(バンドゥン工科大学、ベルントと研究協力者 Cheng Tju Lim が企画・運営)に参加。東南アジアの作家を取材。海外マンガ交流部会(6月)：中垣は京都国際マンガミュージアムにてシンポジウムを開催。日本マンガ学会(7月)：年大会にて共催パネルを企画・運営。韓国(8月)：長池は富川国際漫画祭で研究発表を行い、且つマンガ事情を調査した。中国(11月)：ベルントは南京芸術学院美術館にて、座談会の司会、対談、講演を行った。九州マンガ交流部会(12月)：北九州市漫画ミュージアムでシンポジウムを企画・運営。大城と研究協力者濱野健は研究発表を行い、ベルントはコメンテーターを務めた。東京・香港(3月)：長池、大城は、漫画雑誌の編集長を取材(祥伝社、講談社、集英社)。国内外における女性作家・読者などについて比較調査を行い、香港では、Culture.Com を取材訪問した。
- (2) 第5回女性 MANGA 国際会議【香港芸術中心との共催於 Comix Home Base(3月)】：日本、アメリカ、韓国、中国、オーストラリア、香港などから、CFP をパスした15名の研究発表と2名のマンガ家のトーク

からなる3日間の国際会議を企画・運営。香港を代表する女性作家李惠珍と Stella So を招聘し、李の創作活動50周年に合わせ、60年代から00年代にかけての女性と大衆消費文化という比較文化的テーマを設定した。香港ローカル文化、ファッション、美学、女性学、文学、ジェンダー論、文化論、メディア研究、などを専門分野とする多彩な研究報告がなされ、参加者と発表者の間では熱心な討議が行われた。

<2014年度>

最終年度は、アジア各地域のマンガと女性文化を引き続き調査し、マニラで国際会議を開催、総括を行った。

- (1) 調査・研究: 4月大城は「MANDARA」を取材(講談社)。吉原は、SHAKESPEARE 450(パリ)にて発表・調査; 7月大城は大英図書館で開催された国際会議で発表(研究協力者 Cheng Tju, Ian Gordon も参加)。同図書館初のコミックス展示会、Self Made Hero 社などを訪問・調査; 8月大城は富川国際漫画祭国際学術大会に、10月須川はアジアアニメーションフォーラムに招聘され、講演を行った。8月須川は広島国際アニメフェスティバルに参加; 9月ベルントはヨーロッパ日本学会(リュブリャナ)に出席; 10月-11月: 大城、中垣は、ベルントが運営として関わった“Manga Futures”(ウロンゴン大学、オーストラリア)に参加。ベルントはシドニー、シンガポールを調査; 11月大城は第15回国際MANGAサミット大会(台南)にてアジアの状況を調査。須川は台湾ファンシーフロンティアを取材; 12月大城はデリーで、Mangaful Cafe、Raj Comics 社などを訪問・取材。ベルントは東南アジア日本学会(バンコク)に参加; 1月 Studio Studio 社を訪問(マニラ); 3月、大城、長池は「規制、女性、マンガ」研究会を開催。
- (2) 国際会議: 1月マニラ: アテネオ・デ・マニラ大学とジャパンファウンデーションとの共催で、第6回女性MANGA国際会議を開催。CFPをパスした院生を含む22名の研究発表(全体で394名参加)。東南アジア各地域から作家を10名招聘(うち女性6名)。“Manga-esque”(マンガ風)というキーワードから、マンガを取り込む多様なメディアやコスプレなど派生文化領域についても論じた。従来のコミックスと異なり、マンガを含むグローバルな現象を経て生み出された海外のコミックスを多様なアイデンティティ表現を可能にするメディアとして検証することが、今後のプロジェクトにつながる課題として確認された。

##### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計13件)

- 大城房美、「日本少女マンガと社会表現」『第17回富川国際コミックスフェスティバル論文集』(韓国語・英語・日本語)富川国際漫画フェスティバル(Bucheon International Comics Festival、略称Bicof)108-120頁、2014 査読無
- 中垣恒太郎、「米国における女性オルタナティブ・コミックスの歴史的展開——グラフィック・ノベルの新潮流」『国際マンガ研究』第5号、京都国際マンガ研究センター、2015(印刷中)、査読有
- Jaqueline Berndt, “Manga Studies #1: Introduction,” *Comics Forum*, <<http://comicsforum.org/2014/05/11/manga-studies-1-introduction-by-jaqueline-berndt/>>, 11 May 2014, Leeds University
- Jaqueline Berndt, “Review *Clairvoyance*” <<http://kyotoreview.org/reviews/review-fsc-2012-clairvoyance/>> *Kyoto Review of Southeast Asia*, issue 16, September 2014, Kyoto University
- 須川亜紀子、「ファンタジーに遊ぶ—パフォーマンスとしての2.5次元文化領域とイマジネーション」【招待論文】『ユリイカ 特集2.5』2015年2月臨時増刊号, 41-47頁
- Yukari Yoshihara, “Tacky Shakespeares in Japan,” *Multicultural Shakespeare*, 10(25) 2013, (DOI)10.2478/mstap-2013-0007, pp.83-97.
- Kazumi Nagaike, “Editorial” (co-authored with Dru Pagliassotti and Mark McHarry), *Journal of Graphic Novels and Comics*, Special Issue: *Boys’ Love Manga* 4:1, pp.1-8, (DOI)10.1080/21504857.2013.793207
- 大城房美、長池一美、他「MANGAが女性化する」(共著)『マンガ研究』vol.20, pp.112-151, 2013
- Kazumi Nagaike, “Review of Debora Shamoon, *Passionate Friendship: the Aesthetics of Girls’ Culture in Japan*,” *The Journal of Japanese Studies* 40. no. 2, pp.229-233, 2013, (DOI) 10.1353/jjs.2014.0023
- Akiko Sugawa, “‘Rekijo’, Pilgrimage and ‘Pop-Spiritualism’: Pop-culture-induced Historical Tourism of/for Young Women,” *Japan Forum* 24 2014, pp.37-58, (DOI)10.1080/09555803.2014.962566
- Jaqueline Berndt, “Manga poza Japonią” (Polish), *Zeszyty Komiksowe* (World of Comics), special issue: *Manga.pl*, 2012, pp.33-33 査読有
- Kotaro Nakagaki, “Expanding Female Manga Market: Shungiku Uchida and the Emergence of the Autobiographical Essay,” *International Journal of Comic Art*, Vol. 14-2, 2012, pp.236-250 査読有
- Kazumi Nagaike (co-authored with Katsuhiko Suganuma), “Editorial,”

〔学会発表〕(計 51 件)

Fusami Ogi, Karl Ian Uy Cheng Chua (企画・運営), 第 6 回国際会議 “Manga and the Manga-esque: New Perspectives to a Global Culture,” Japanese Studies Program of Ateneo de Manila U, Women’s Manga Research Project, Japan Foundation(共催), Ateneo de Manila University, Manila (Philippines), 2015.1.22-23 [発表題目 27 本、研究者 22 名、作家 10 名参加。以下代表者・分担者による発表題目 5 本:]

Jaqueline Berndt, “Considering the ‘Mangaesque’ as a Cultural Condition: Where Japanese Studies and Manga Studies May Meet,” 2015.1.22

Akiko Sugawa, “Performing 2.5 Dimensional Characters: Cosplay as a Practice in Hybrid Reality,” 2015.1.22

Fusami Ogi, “Manga-esque Hybridity Coming Out of Women’s Manga,” 2015.1.23

Kotaro Nakagaki, “Sexual Issues of Aging Women: Shungiku Uchida and Challenges in Women’s Manga,” 2015.1.23

Yukari Yoshihara, “What Female Manga Artists are Doing with Shakespeare,” 2015.1.23

Fusami Ogi, “How Are Shōjo Manga (Manga for Girls) Political? NANO HANA by Moto Hagio” in The 5<sup>th</sup> International Graphic Novel and Comics Conference, The British Library, London(UK), 2014.7.19

大城房美、「日本少女マンガと社会表現」『第 17 回富川国際コミックスフェスティバル』Manhwa Museum, Buchoen (韓国), 2014.8.14

Fusami Ogi, “Shōjo Manga Presenting Taboos and the Future: Incest and Women,” “Manga Futures the 6<sup>th</sup> International Scholarly Conference,” U. of Wollongong, 2014.11.2, ウロンゴン(Australia)

Jaqueline Berndt, “Manga and 3/11,” Japan Syndrome 芸術祭、ベルリン HAU 劇場、ベルリン(独), 2014.5.24

Jaqueline Berndt, “Manga Style: How ‘Form’ Travels,” EAJS/European Association of Japanese Studies, U. of Ljubljana, Ljubljana (Slovenia), 2014.8.27-30

Yukari Yoshihara, “Transvestites in Shakespeare and manga adaptations of Shakespeare,” SHAKESPEARE 450, Ecole des Mines Paris Tech (Paris, France), 2014.4.22

Yukari Yoshihara, “Popular Shakespeares in East Asia: Local and Global Dissemination,” SHAKESPEARE 450, Ecole des Mines

Paris Tech (Paris, France), 2014.4.23

中垣恒太郎、「『他者』の映像記録を物語化することはいかにして可能か? ——ローカリティ/ジェンダー/映像人類学の観点から『物語』の可能性を展望する」Cultural Typhoon 2014、2014.7.29, 国際基督教大学

Kazumi Nagaike, “Fudanshi (Rotten Men) in Asia: A Cross-Cultural Analysis of Male Readings of BL,” Association for Asian Studies Annual Conference 2015, 2015.3.28, Chicago (USA)

須川亜紀子, “Japanese ‘Magical Girl’ anime for Girls: Representations of Female Adolescence,” Asia Animation Forum, The 16th Bucheon International Student Animation Festival, 2014.10.23, プチョン(韓国)

Akiko Sugawa, “Mecha-nized Shōjo/Shōjo-fied Mecha in *Arpeggio*, *Kankore*, and *Girls und Panzer*,” Asian Frontiers Forum, 国立台湾師範大学、2014.11.28, 台北(台湾)

大城房美 長池一美(企画・運営) 第 5 回国際会議 “Modern Women and Their Comics: Changing Local Identities from the 1960s to the 2000s” Women’s Manga Research Project, Hong Kong Arts Centre(共催), 2014.3.22-24, Comix Home Base (香港) [研究発表 15 本。以下、代表者・分担者による発表題目 6 本:]

Yukari Yoshihara, “Transvestites in Shakespeare and Global Manga Adaptations of Shakespeare,” 2014.3.23

Akiko Sugawa, “Emerging Kawaii Identity in *Ribon*: Fashion, Maidenesque, and Consumerism in 1970s Japan,” 2014.3.23

Jaqueline Berndt, “Surface Phenomena: Revisiting the ‘Beauty’ of Women’s Comics,” 2014.3.23

Kotaro Nakagaki, “Gender Politics and Body Transformation: The Works of Shungiku Uchida and the “Shrinking” Theme,” 2014.2.24

① Fusami Ogi, “New Generation Appears Beyond Japanese Shōjo Manga: Drawing ASIAs in the 1960s and the 2000s,” 2014.3.24

② Kazumi Nagaike, “For Liberation and/or Moe?: The Decline of Bishōnen and the Emergence of New Types of Male Protagonist in Contemporary BL,” 2014.3.24

③ Jaqueline Berndt (企画担当、司会、報告), “Comics Alternatives: From Graphic Diary to Manga Style,” The 5<sup>th</sup> imrc International Scholarly Conference, 2013.6.14-16, ITB Bandung, Bandung (インドネシア)

④ Jaqueline Berndt, 「国際漫画研究の現状: 物語漫画を読む」『漫出格: 独中漫画交流展』

- 2013.10.20, 南京芸術学院美術館, 南京(中国)
- ②⑤ Yukari Yoshihara, “Let’s hack the flagship! Naughty Shakespeares in Japan,” Shakespeare in Asia Manila 2013, 2013.12.5, University of Philippines, Dilman (Philippines)
- ②⑥ Yukari Yoshihara, “Shakespeare made cutie, kiddy, girly and kawaii,” The Shakespeare Association of Korea, 2013.11.2, Seoul National University, South Korea
- ②⑦ Kazumi Nagaike, “Storytelling in Boys’ Love Manga: An Analysis of the Representation of Foreigners,” Bucheon International Comics Festival, 2013.8.15, Bucheon (韓国)
- ②⑧ Kazumi Nagaike, “The Discourse of War in Japanese Shōjo Manga,” Popular Culture Association of Australia and New Zealand 2013, 6.24, Brisbane(Australia)
- ②⑨ 大城房美(司会・運営) 長池一美(パネリスト)「シンポジウム：マンガとアジア」日本マンガ学会第13回大会 2013.7.7
- ③⑩ Akiko Sugawa, “Shifting Images of Japanese Magical Girls since 1966: From Sally to Als and Akko,” The Symposium at Anime Expo “Girls and Women,” 2013.7.5, ロサンゼルスコンベンションセンター(USA)
- ③⑪ 須川亜紀子, 「アニメ、マンガにみる家族表象とジェンダー問題」, 国際シンポジウム「女性力」の活用・向上と男性の問題と役割——女性力を活用・向上するために男性側に求められるもの——, 2013年度青山学院大学国際交流共同研究センタープロジェクト, 2014.1.11, 青山学院大学
- Fusami Ogi, Rebecca Suter (企画・運営), 第4回国際会議 “Women’s Manga in Asia: Glocalizing Different Cultures and Identities” Women’s Manga Research Project, The Department of Japanese Studies at the University of Sydney, The Art Gallery of New South Wales(共催), 2013.1.23-25, Sydney(Australia) [研究発表19本。作家によるシンポジウム。以下、代表者・分担者による発表題目6本:]
- ③② Fusami Ogi, “How Women’s Manga Has Performed the Image of ASIAs, Globally and Locally,” 2013.1.23
- ③③ Kazumi Nagaike, “Fudanshi in Asia!,” 2013.1.23
- ③④ Kotaro Nakagaki, “The Development of Alternative Japanese Women’s Manga Genre: Shungiku Uchida and the Manga Cultural Markets in the 1980’s,” 2013.1.24
- ③⑤ Akiko Sugawa, “Fashioning “Feminine Masculinity” through Cross-Dressing Cosplay of Manga/Anime Characters: Changing Gender Dynamics in Singapore and the Philippines,” 2013.1.24
- ③⑥ Yukari Yoshihara, “Feminist Manga Rewritings of Shakespeare’s Works,” 2013.1.24

- ③⑦ Jaqueline Berndt, “Invisibly Asian? On Representation and Affect in Women’s Manga,” 2013.1.24
- ③⑧ Fusami Ogi, “How a Shoujo (a Japanese Girl) Transcends National Borders Through an Incestuous Body Since the 1970s,” The 9<sup>th</sup> International conference *Crossroads in Cultural Studies* 2012, Université Sorbonne Nouvelle, 2012.7.5, Paris(France),
- ③⑨ Fusami Ogi, “History of Shoujo Manga,” Blush: the Southeast Asian BL Convention, 500 Shaw Zentrum, 2012.12.9, Manila(Philippines)
- ④⑩ 大城房美, 「事例報告：香港のマンガ状況」日本マンガ学会九州マンガ交流部会, 2013.2.10, 北九州市漫画ミュージアム
- ④⑪ 大城房美(企画・運営・司会), 『かわいい』の系譜」, 九州で触れたいマンガ：読むひと描くひとシリーズ第6回, 「少女マンガの世界展」記念シンポジウム, 2013.3.24, 北九州市漫画ミュージアム
- ④⑫ Jaqueline Berndt, 「東南アジアのマンガ」特別ワークショップ「東南アジアのマンガ」2012.6.4, 京都精華大学マンガ研究科
- ④⑬ Jaqueline Berndt, “Subversion impossible? Rediscovering manga’s critical potential after 3-11,” Mechademia Conference on Manga, Anime and Media Theory from Japan: “World Renewal: Counterfactual Histories, Parallel Universes and Possible Worlds,” 2012.11.30-12.2, Dongguk University, Seoul(Korea)
- ④⑭ 中垣恒太郎, 「瀬戸内文化圏をめぐる物語の現在」Cultural Typhoon 2012 広島グループワーク「瀬戸内から世界へ——『ローカリティ/ジェンダー/ことば』をめぐる地方文化の現在」, 2012.7.14, 広島女学院大学
- ④⑮ 中垣恒太郎, 「海外マンガの多様性」日本マンガ学会海外マンガ交流部会第5回例会, 女性 MANGA 研究プロジェクト共催. 2013.3.10, 京都国際マンガミュージアム
- ④⑯ Yukari Yoshihara, “Is This Still Shakespeare?: On Some Pop Ripping-offs of Shakespeare,” Contemporary Adaptations of Shakespeare: Shakespeare and Postcolonialism, 2012.6.1, 一橋大学
- ④⑰ 吉原ゆかり, 「京城帝国大学(当時)・台北帝国大学(当時)における西洋文学研究・教育についての現地基礎調査報告」『帝国日本の文学研究・教育』研究会, 2013.2.18, 筑波大学つくばキャンパス
- ④⑱ Kazumi Nagaike, “What is Yaoi?” Blush: the Southeast Asian BL Convention, 2012.12.9, 500 Shaw Zentrum, Manila(Philippines)
- ④⑲ 長池一美, 「事例報告：フィリピンのマンガ状況」日本マンガ学会九州マンガ交流部会, 2013.2.10, 北九州市漫画ミュージアム
- ④⑳ 須川亜紀子, 「フィリピンにおけるマンガ・アニメの影響」海外マンガ交流部会,

2013.3.10, 京都国際マンガミュージアム  
51 Akiko Sugawa, “Contested Classrooms: Re-constructions of ‘Japanese-ness’ through Anime in a Mix Class and a Non-mix Class taught in English Language in Japan,” Teaching Japanese Popular Culture Conference, 2012.11.12, National University of Singapore, Singapore

〔図書〕(計 18 件)

大城房美(編著)『女性マンガ研究——日本・欧米 アジアをつなぐ MANGA』青弓社, 全 311 頁, 2015 [研究分担者/協力者の論文 14 本を所収。以下、代表者・分担者による担当頁:大城房美 9-15, 20-47, 吉原ゆかり 48-61, ジャクリーヌ・ベルント 84-105, 295-297, 長池一美 134-152]  
Jaqueline Berndt (分担執筆 257-278) Monica Chiu, ed. *Drawing New Color Lines: Transnational Asian American Graphic Narratives*, Hong Kong UP, 2014, 全 368 頁  
Jaqueline Berndt, *Manga: Medium, Kunst und Material/Media, Art and Material*, Leipzig UP, 2015, 全 246 頁。  
Yukari Yoshihara, Alexa Huang and Elizabeth Rivin eds., *Shakespeare and the Ethics of Appropriation*, Palgrave, 2014, 全 274 頁  
Jaqueline Berndt (分担執筆 245-269), Gianluca Coci (a cura di/ed.), *JapanPOP: parole, immagini, suoni dal Giappone contemporaneo*, Roma: Aracne editrice, 2013 年, 全 712 頁  
Jaqueline Berndt (分担執筆 321-337), Daniel Stein and Jan-Noël Thon, eds, *From Comic Strips to Graphic Novels: Contributions to the Theory and History of Graphic Narrative* (Narratologia series), Berlin: deGruyter, 2013, 全 416 頁  
Jaqueline Berndt (共編著, 執筆担当頁 1-15, 65-84) *Manga's Cultural Crossroads*, co-ed. with Bettina Kümmerling-Meibauer, London: Routledge, 2013, 全 270 頁  
ジャクリーヌ・ベルント (編著, 執筆担当頁 3-9), 大城房美(分担執筆 181-196)『日本マンガと「日本」: 海外の諸コミックス文化を下敷きに』(国際マンガ研究, 4 巻), 国際マンガ研究センター, 2014, 全 310 頁  
吉原ゆかり(分担執筆 23-45), 遠藤不比人 編著『日本表象の地政学』彩流社, 2014, 全 249 頁  
吉原ゆかり(分担執筆 79-101), 白百合女子大学 言語・文学研究センター編『文学のグローバル研究』弘学社, 2014, 全 110 頁  
Kazumi Nagaike(共編著)*Boys Love Manga and Beyond: History, Culture, and Community in Japan*, University of Press of Mississippi, 2015 年, 全 303 頁

須川亜紀子,『少女と魔法—ガールヒーロー—はいかに受容されたのか』NTT出版 2013, 全 278 頁  
Akiko Sugawa(分担執筆 199-222), *Japanese Animation: East Asian Perspectives*, UP of Mississippi, 2013, 全 320 頁  
中垣恒太郎(分担執筆 176-183)『英米児童文化 55 のキーワード』ミネルヴァ書房, 2013, 全 280 頁。  
須川亜紀子, 中垣恒太郎(分担執筆須川: 3-15, 47-75, 75-95, 242-250 中垣: 16-46)『アニメ研究入門—アニメを究める九つのツボ』現代書館, 2013, 全 254 頁  
Kazumi Nagaike, Brill, *Fantasies of Cross-dressing: Japanese Women Write Male-Male Erotica*, 2012, 全 227 頁  
須川亜紀子(分担執筆 143-159)朝倉書店『アニメーションの事典』2012, 全 462 頁  
Akiko Sugawa(分担執筆 131-135)Salem Press, *The Critical Survey of Graphic Novels: Manga*, 全 382 頁, 2012

〔その他〕

ホームページ

<http://www.chikushi-u.ac.jp/womenandmanga>

<http://www.artgallery.nsw.gov.au/calendar/women-manga-artists/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

大城 房美(OGI FUSAMI)

筑紫女学園大学・文学部・教授

研究者番号: 80289595

(2)研究分担者

ジャクリーヌ ベルント (JAQUELINE BERNDT)

京都精華大学・マンガ学部・教授

研究者番号: 00241159

中垣 恒太郎(NAKAGAKI KOTARO)

大東文化大学・経済学部・准教授

研究者番号: 80350396

吉原 ゆかり(YOSHIHARA YUKARI)

筑波大学・人文社会科学部・准教授

研究者番号: 70249621

長池 一美(NAGAIKE KAZUMI)

大分大学・学内共同利用施設等・准教授

研究者番号: 90394992

須川 亜紀子(SUGAWA AKIKO)

横浜国立大学・教育人間科学部・准教授

研究者番号: 90408980